

## 全てにもっともっと「こだわり」をもって

JTA 2005年社長年頭あいさつ

2005年1月4日

第04055号

日本トランスオーシャン航空（JTA、本社 那覇市、社長 市ノ澤武士）は、本日（4日）午前、本社において年始式を開催致しました。社長挨拶の概要は下記の通りです。

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましてはご家族お揃いで新春をお迎えになられたものと思います。

さて、昨年も創業来継続している人身死亡無事故記録を更新することが出来ました。このことは日々皆さん方一人一人がそれぞれの職責をしっかりと果たして下さった結果であります。正に『航空事業の原点』をしっかりと守り抜いて頂き衷心より感謝申し上げます。

また昨年は我が社にとり記念すべき年であった反面、極めて厳しい年でもありました。

即ち1月23日～26日、天皇・皇后両陛下が沖縄県を行幸啓なされ、創業来初めて弊社便をご利用賜りました。関連各社の仲間含め皆さん方に総力を上げて取り組んで頂いた結果、両陛下に素晴らしいフライトをご提供出来たものと確信致しております。

しかしながら、一方では、先ず台風の影響の凄さがありました。台風は29個発生し、そのうち15個の影響を被りました。欠航便数、影響旅客数、逸失収入のいずれも過去最大となりました。また、原油価格の急騰により航空燃油費も大幅に上昇し、全世界の航空会社が深刻な影響を受け未だ厳しい状況が続いています。

このように航空事業は我々の力の及ばない要因によって経営が大きく揺さぶられるということ、これを再認識させられるとともに、常に危機意識を持って経営を進めなければならないということ、これを強烈に教えられた年でありました。

さて、新しい年を迎え、我が社はこれからの一年何を基本にし経営を進めて行くべきか、次に申し述べたいと思います。

先ず、皆様方ご存知の通り日本航空は昨年4月1日、旧JAL・JASが名実ともに経営統合し新生日本航空として再出発し、我が国の空は新生JALグループとANAグループの二大メガグループによる戦いの時代に入りました。かつてのJAL・ANA・JASの三大グループによる戦いの時代と異なり、「勝ち負け」がより鮮明になる時代と申し上げても過言ではありません。

私はこうした熾烈な競争の時代を迎えた中で、且つ原油価格が長期的に高い水準で推移するであろうと言われている状況の中で、我が社がこれからも着実に成長していくために、これからの一年を改めて『経営基盤強化元年』と位置付け次の三つのテーマにつき徹底的にこだわった取り組みを実践することが重要であると認識しています。そしてその取り組みを実りあるものにする事が出来れば、必ずや地元沖縄県およびJALグループの中での我が社の存在感はより大きなものになるものと確信致します。

（次頁に続く）

## 1．安全運航・航空保安をはじめとする全ての業務品質へのこだわり

航空事業の原点は『安全運航の堅持』であることは申し上げるまでもなく、且つ安全運航が全てに優先します。即ち安全運航なくして航空事業は成り立ちません。安全については妥協は許されません。何故なら人の生死に関わる問題だからです。

安全運航を守り抜くためには運航・整備・空港・客室各部門をはじめ、あらゆる部門・職場が一体となり、しかも関連・委託会社の仲間との信頼関係の下、がっちりスクラムを組み一年365日、毎日且つ一便一便心血を注ぎ取り組んでいかなければなりません。事故は『一瞬の油断・一つの判断ミス』から惹起します。

従って本年は基本項目に徹底的にこだわりヒューマンエラーを排除し『安全運航・航空保安』をしっかり守り抜きましょう。

## 2．お客様が第一(顧客満足)へのこだわり

如何にお客様に選んで頂けるかということは、航空会社の極めて重要なテーマです。

2004年沖縄県を訪れた観光客数は2年連続で500万人を超え確実に500万人時代を迎えました。しかもそのうち約60%の方々がリピーターと言われております。沖縄県の自然・歴史・文化・人々・新しい各種施設等に触れ、また色々な体験を通し『次も沖縄に行ってみたい』と言うことになるのでしょうか。

従って我々自身常に『どうしたらお客様にご満足頂けるか』ということにつき徹底的にこだわり日々の業務を遂行するならば、JTAファン、JALファンはどんどん増えて行くことでしょう。また、沖縄を訪れるお客様ももっともっと増え、必ず600万人時代が到来することと思えます。

## 3．構造改革と事業計画達成へのこだわり

既に申し上げました通り、我が社を取り巻く経営環境、即ち競争環境と収支環境は一段と厳しくなって来ています。近年になく極めて厳しい時代を迎えたものと言わざるを得ません。

我が社が今後とも安定的に成長していくためには、常に一定の利益を確保し、一段と財務体質を強化して行かなければなりません。

このためには、営業収入の確保に全力投入すると共に、これまで以上にスピードを上げて構造改革を進めて行くことが重要です。

以上新しい年を迎え本年の基本的考え方或いは諸環境につき率直に申し上げましたが、私は我が社が地元沖縄県の発展にもっともっと貢献できる会社に、そしてJALグループの中でもっともっと大きな役割を担い得る会社に、即ち『より存在感のある且つ信頼される会社に』なることを心底願い本年も皆様方とともに闘って参ります。

皆様一人一人が会社の『主役』です。頑張りましょう。

最後になりましたが皆様方の益々のご活躍そしてご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

以上